

学校と地域をむすぶ

かけはし

大津市立葛川小中学校

地域コーディネーターだより

N.O. 1

2017. 6. 6.

4月10日に、はじめての小中学校合同の入学式が行われ、たくさんの来賓の方々や保護者の方々に祝福されながら、小学校は1名、中学校は4名が入学しました。今年度は、小学生14名、中学生11名でスタートを切っています。新学期が始まり、はや2カ月がたちましたが、新しい環境のもと、小中学校が一体となり、学習や活動を進めています。今年度も、地域の方々には子どもたちの学習や活動に関わっていただく機会がたくさんあるかと思いますが、今まで以上に、地域の方々に学校や子どもたちの様子を知っていただきたくために、この「地域コーディネーターだより」を発行していきたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

冬をこえた学校林

学校林活動をはじめて7年目の春。例年ない大雪に見舞われた今年の長く厳しい冬の間に学校林の木々はどうなったのだろう。5月11日、晴れ渡る青空のもと、小中学生は6カ月ぶりにアシビ谷の学校林に行きました。山の上から見下ろす景色が今までとは違いました。斜面の様子も変わっていました。森林組合の織田さんから雪解けの春に山に入った時の様子をお聞きしました。上り道が崩れたり、まわりに張られた網が倒れて鹿が入り放題になっていたり、大きな木が折れていったりしていたそうです。それだけ、この冬の雪がすごかったということです。森林組合の方々が、道や網を直し、倒れた木を切り、修復をしてくださっていました。一昨年の秋に選んだ5本の木。ヒノキ、コナラ、クヌギ、ヤマザクラ、スギの木を班



ごとに観察しました。50cmほどだったスギの苗木も、この7年間で2m以上に生長しています。ヘキサチューブの中のヒノキも鹿に食べられることなくすくすくと育っています。ヘキサチューブから頭を出す他の木々の葉も大きくなっていました。雪にも負けずに元気に育っている木を見てうれしく思いながらも、雪に押し流されて崩れ落ちた木々や、倒れている木々を見ながら、改めてこの冬の雪のすごさを感じました。倒れた木はわらひもで引っ張り「雪おこし」をしました。ヘキサチューブの中で、葉っぱが下を向いたヒノキを救出するために、ヘキサチューブをとって曲がった枝葉を起こし、もう一度ヘキサチューブをかぶせました。中学生をリーダーにして各グループごとに作業を進めました。中西

専務からは、7年間で大きく成長した木の様子、私たちが植えた木は環境を選ぶことができないことで、その中で、一番この土地にあっていたのはスギの木だということをお聞きしました。茶色く枯れたように見える1本のスギの木をみんなは不思議に思っていましたが、何年か前の「雪おこし」の時にビニールひもで引っ張ったため、木の幹が太くなるにともない、ビニールひもに締めつけられて枯れてしまったのだというお話を聞きました。なぜわらひもで引っ張るのかがわかりました。私たちの活動の前に、山の修復をしてくださっていたので、山に上るのも作業をするのも楽にさせていただきましたが、それでもお話を聞きながら冬を乗り越えるための大変さを感じることができました。今年度、この学校林は、「全国緑化コンクール」において、学校林等活動の部「特選」「農林水産大臣賞」をいただきました。木の生長にともなう新たな作業も教えていただきながら、今ある木々を守り育てていきたいと思います。いつもお世話になっている森林組合の方々、ありがとうございました。

グランドゴルフで 楽しいひととき

今年も、小学校1～6年生が、寿会の方々とグランドゴルフを行いました。早くから来ていただき、小学校の運動場にコースを作っていただきました。小西会長からは、「おじいちゃん、おばあちゃんたちと楽しくやってください」とお言葉をいただきました。岡崎武久さんからはルールを教えていただきました。グランドゴルフは鳥取県の泊村というところで生まれたため、ホールに入るこことを「とまり」ということもはじめて知りました。4つのチームに分かれてスタートです。はじめてクラブを持つ1年生。「もうちょっと足を開いて」「コーンとあてたらいいよ」など、おじいちゃん、おばあちゃんから手を取りながら教えていただきました。高学年はもう何度も経験済み。「ライバルやあ」と闘志を燃やします。それでも、寿会さんの打った打球がまっすぐポストめがけて飛んでいくのを見て、「すごい！」「音がちがう！」とベテランの技に感動です。次々とコースを回っていくにつれ、コツがつかめてきて楽しくなってきました。そのうち、ホールインワンをねらう人も。あつという間に時間はたち、まだまだやっていたい気持ちをあとに、終了。後片付けはいっしょにやりました。その後、給食をいっしょに食べながら表彰式です。大人の部、子どもの部、それぞれ3位まで表彰されました。ホールインワン賞もたくさん出ました。大きな拍手がわきおこりました。



いつも練習を重ねておられる寿会のみなさんは、やっぱりお上手です。グランドゴルフのおもしろさがだんだんわかってきた子どもたち。またの機会によろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

さつまいもやお野菜 いっぱいとれますように

学校の畑にも春がやってきました。小学校の1・2年生は、寿会の方々に教えていただきながらさつまいもの苗植えです。3年前に寿会の方に作っていただいた頑丈な柵と網に守られて、去年もおと年もたくさんのおいもや野菜を収穫することができました。今年もその網を張っていただき、耕運機で耕してうねを作っていただきました。いよいよ苗を植えます。「ななめにさしこんで」「葉っぱは南の方に向けるよ」「抜けんように土かぶせてあげや」とアドバイスをもらいます。今年の1・2年生は3人。70本の苗を植えるのは大変！と



思っていましたが、次々と苗を持ちどんどん植えていき、あつという間に長い畠にはさつまいもの苗が植わりました。わらをかぶせてたっぷりお水をあげました。お天気続きで土が乾ききっていたので、いくらお水をあげてもすぐに吸い取られてしまいます。バケツで水を運ぶのは大変でしたが、おじいちゃんおばあちゃんたちも手を貸してくださり、水やりも完了。「毎日たくさんお水をあげてね」というお言葉に答えながら、毎日水をあげるのが日課になっています。

さつまいもの苗植えに続いて、今度は野菜の苗植えです。

どうもろこし、ピーマン、きゅうり、ミニトマト。1・2年生が育ててみたかった野菜です。あいにく、この日は小雨が降り、畑に植えることはできませんでしたが、小西達雄さんから、苗の植え方を教えていただきました。それぞれ葉の形や花の色の違う苗の種類も教えていただきました。葉っぱを手で触ってみたり、においをかいみたり、じっくり苗の観察です。「きゅうりのにおいがする！」「下の葉っぱはつるつるなのに、上の葉っぱはとげとげや」「もうピーマンの形みたいになってる」と野菜苗を前にたくさん発見。雨の上がった次の日に教えていただいた通り、野菜の苗を植え終わりました。



今年もこの畑でサルや鹿に負けないで大きなたくさんのおいもや野菜が採れることを楽しみにしています。

山の木のすばらしさ

中学1年生は、6月はじめに「ふるさと体験学習」で2泊3日の宿泊学習を行います。その活動の一つに、「間伐体験」があります。学校林活動でも、いろいろな作業をしたり木を観察したりしながら、木を身近なものに感じていますが、さらに、今回は「間伐」という作業を体験させていただくことを通して、山の木を守る仕事について学ばせていただきます。それに先立って、木と深い関わりのある仕事をされている、伊香立の坂田工務店社長の坂田徳一さんからお話を聞きました。「山の木はどんな役割をしているのだろう?」「日本の山は国土のどれぐらい?」坂田さんからの質問にそれぞれ自分の考えを発表します。日本では昔から木を使った建物や道具がたくさんつくられてきました。写真を見せていただきながら、「木でこんなすごいものができるんだ」とびっくり。「木の種類によってつくるものは変わるのでですか?」進んで質問をします。それぞれの木には特徴があり、その良さを生かしてつくるそうです。切り出された山の木をつなぎ合わせて長くするのは大工さんの匠の技。実際に木の板2枚をつなぎあわせる仕組みを見せていただきました。ヒノキのさいころ型の角材を紙やすりでけずってみました。するとそこからはとてもいいにおいが。ヒノキのにおいです。手でさわってみると、あったかい。木のぬくもりです。木はわたしたちの心をなごませてくれる不思議な力を持っているのだと感じました。わたしたちの住んでいる葛川や久多にはたくさんの山の木々があります。

「間伐」をすることにより、山は元気になっていく。今、眠っている山の木々も、今後使われていく時代がくるだろうという希望の持てるお話も。かつて、葛川では山の木を使って炭焼きが行われ



たり、木地師の人たちが木のお盆やお椀を作ったりしていました。人々は木と深く関わっていたのです。葛川や久多のすばらしさは、この山の木があることと川の水がきれいなこと。このすばらしさを活用していってほしいという将来につながる山の木々の話を聞きしました。また、先日完成した町居の自治会館は、まわりの景観や景色を守ることができるように木を使ってつくられたのだというお話も聞きました。60年たった山の木を使って家をつくる。そしてその家に60年住み続けてもらうと、また山には60年の木が育つ。循環される社会を考えながらお仕事をされている熱い坂田さんの木に対する思いが感じられました。

限られた時間でしたが、坂田さんのお話を聞いているうちに、どんどん木のすばらしさが浮き彫りにされてきて、そのすばらしさを持つ木々がわたしたちのまわりにはたくさんあることが誇りに思え、何かできそうな、やってみたい気持ちがわいてきました。

